

ワクチンを受けるのに注意が必要な人など

◎以下に当てはまる人は、ワクチンを受けることができない場合や注意が必要な場合があります。かかりつけ医等にワクチンを受けてよいかどうかご相談ください。

受けることができない人	○明らかな発熱がある人や重い急性疾患にかかっている人 ○ワクチンの成分に対し、重度の過敏症を起こしたことがある人
注意が必要な人	○現在、何らかの病気で治療中の人 ・心臓病、腎臓病、肝臓病、血液疾患、免疫不全等で治療中の人 ・血が止まりにくい病気の人や、血をサラサラにする薬を飲んでいる人 ○以下の様な症状が出たことがある人 ・薬や食品に対する重いアレルギー症状 ・けいれん(ひきつけ)

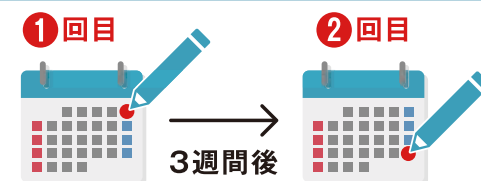
◎住民票がある場所(住所地)以外での接種について

- ・入院・入所中の医療機関や施設でワクチンを受ける人 → 医療機関や施設でご相談ください。
- ・基礎疾患の治療を行っている医療機関でワクチンを受ける人 → 医療機関でご相談ください。
- ・お住まいが住所地と異なる人 → 実際にお住まいの地域でワクチンを受けられる場合があります(※)。

(※)「住所地外接種届出済証」が必要になります。実際にお住まいの市町村の相談窓口にお問い合わせください。

ワクチンを受けた後について

ワクチンは通常、3週間の間隔で2回接種します。



ワクチンを受けた後も

マスクの着用など、感染予防対策の継続をお願いします

具体例)



新型コロナワクチン接種のお知らせ

対象者に対しまして、4月下旬に接種券や接種日時を記載したお手紙を送付していますので確認をお願いします。

なお、ワクチンを受ける際には、下記に記載するような感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について正しい知識を持ったうえで、ご本人の意思に基づき接種を判断いただきますようお願いいたします。

新型コロナワクチンの有効性と安全性

ファイザー社のワクチンについて

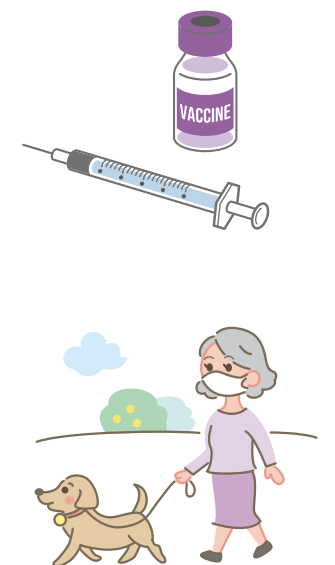
◎ワクチンの効果：

新型コロナウイルスによる感染症の予防

メッセンジャーRNAワクチンという種類のワクチンです。ワクチンを受けた人の方が受けていない人よりも、新型コロナウイルス感染症(※)を発症した人が少ないということがわかっています。

(発症予防効果は約95%と報告されています。)

(※)新型コロナウイルスによる感染症が発症すると、熱や咳など風邪によく似た症状がみられます。軽症のまま治癒する人も多い一方、症状が重くなると、呼吸困難などの肺炎の症状が悪化し、死に至る場合もあります。



◎ワクチンの安全性：

■接種後、数日以内に現れる可能性がある症状

発現割合	症 状
50%以上	接種部位の痛み、疲労、頭痛
10-50%	筋肉痛、悪寒、関節痛、下痢、発熱、接種部位の腫れ
1-10%	吐き気、嘔吐

コミナティ®添付文書より改編

・接種直後よりも翌日に痛みを感じている人が多いです。

・これらの症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。

・疲労や関節痛、発熱など、1回目より2回目の方が、頻度が高くなる症状もあります。

・接種後すぐにアナフィラキシーや血管迷走神経反射が起こることが稀にあります。

○アナフィラキシー

・薬や食物が体に入ってから、短時間で起こることのあるアレルギー反応です。皮膚症状(じんま疹など)や消化器症状(腹痛など)、呼吸器症状(息苦しさなど)が起こります。接種会場では、適切な医療体制を整備しています。

○血管迷走神経反射

・ワクチン接種に対する緊張や、強い痛みをきっかけに立ちくらみがしたり、血の気が引いて、時に気を失うことがあります。通常、横になって休めば自然に回復します。